

【資料】

双子コーデに関する社会心理学的検討

— 双子コーデをする理由の構造と経験有無による違い —

市村美帆、新井洋輔

The social psychological features of “Futago-corde” phenomenon

— Differences based on experience of “Futago-corde” —

ICHIMURA Miho, ARAI Yosuke

要旨

本研究の目的は、大学生が双子コーデ現象をどのように捉えているのか、双子コーデの経験有無による違いについて検討することである。大学生161名を対象に質問紙調査を行った。その結果、大学生は、テレビやSNSおよびインターネットで双子コーデの情報に触れたり、友だちが双子コーデをしていたり、実際に街中で双子コーデをしている人たちをみたことがあるといったように、様々な形で現象に触れていた。双子コーデは主として女性同士で行われる現象であるが、男性もしくは異性同士でも行われるものでもあることや、関係の深い2人によって双子コーデが行われると捉えられていた。また、大学生は双子コーデを、楽しく、テンションがあがることと考え、双子コーデというファッションにかわいいやほほえましいといった評価をしており、好意的に捉えていた。双子コーデをする理由については、「自分の楽しさ志向」「友だちとの関係志向」「流行・社会志向」の3つのまとまりに整理された。双子コーデの未経験者で今後経験したくない者は双子コーデをする理由を「友だちとの関係志向」で捉え、双子コーデの経験者や今後経験してみたい者は双子コーデをする理由を「自分の楽しさ志向」と考えていた。

キーワード：双子コーデ、友人関係、数量化Ⅲ類

futago-corde, friendship, quantification theory type III

問題と目的

青年期を中心として、双子コーデを楽しむという現象がある。双子コーデの現象については、市村・新井・今野（2018）が、Twitterに投稿された双子コーデに関する画像から現象を整理し、「双子コーデとは、同性の友人関係にある2人が、同じ洋服や装飾アイテム、もしくは同じ洋服の色や柄違いを用いて、“同一であるように”全身をコーディネートし、双子のように演出することである」と定義している。市村ら（2018）によれば、大学生において、双子コーデの経験者は男性（3.2%）よりも女性（39.4%）の方が多いものの、男女ともにテレビやインターネット、雑誌などで双子コーデの情報に触れたり（男性78.1%、女性93.9%）、実際に双子コーデをしている人を見たりした経験（男性62.5%、女性98.5%）があり、大学生において双子コーデは周知されている現象である。以上のように、青年期において双子コーデという現

象が周知され取り入れられているが、双子コーデ現象がどのような現象なのか、心理学的な視点からの検討は不十分である。

友人の間で、同じ洋服や装飾アイテムを持つという双子コーデのような現象は、友人関係における「共有」の1つとしても、取り上げられている。高坂・池田・葉山・佐藤(2010)によれば、友人関係における「共有」とは、一つの何かを、あるいは、同じ何かを二人以上が共にもつことであり、友人関係の構築や維持、親密化にポジティブやネガティブな機能をもつ。高坂ら(2010)によれば、中学生を対象とした調査の結果、共有しているものとして、「気持ち」、「目標」、「秘密」、「趣味」という心理的な共有、「物品」という物質的な共有、「おしゃべり」、「部活動」、「移動行動」といった行動的な共有がある。一方、池田・葉山・高坂・佐藤(2013)では、大学生を対象にした調査から友人関係における共有様式を整理し、「関係の共有(私と相手との間には確かな絆(きずな)がある)」、「場の共有(私と相手は行動を共にすることが多い)」、「気持ちの共有(私と相手はお互いの悩みを話し合う)」、「意思の共有(私と相手は同じ目標に向かって進んでいる)」、「物品の共有(私と相手はおそろいの物を持っている)」、「感性の共有(私と相手は好きなものが似ている)」という6つの共有様式を見出している。以上から、同性の友人関係にある2人が、同じ洋服や装飾アイテム、もしくは同じ洋服の色や柄違いを用いて、“同一であるように”全身をコーディネートし、双子のように演出することである双子コーデ(市村ら, 2018)は、洋服や装飾アイテムという物質的な共有と、ファッションの志向が似ているといった感性などを共有していると考えられる。

山田(2017, 2019)は、高坂ら(2010)や池田ら(2013)の取り上げた「物品」の共有を、他の共有とは異なり、唯一、同質性を視覚化できるものであるとし、「おそろい行動」として注目している。山田(2017, 2019)では、おそろい行動を、複数の友人間で意図的に服装、髪型、持ち物を合わせることを指し、全く同じである必要はなく、同じ柄・キャラクター・色違いなど合わせているものが一部であったり、雰囲気や第三者からみて合わせているとわかるものといったように幅広く捉えている。女子中学・高校生を対象とした調査(山田, 2019)では、おそろい行動として、「私は休日・週末など外出するとき服装を友人とそろえている(中学生15%、高校生2%)」、「私はライブ・旅行の時に服装を友人とそろえている(中学生24%、高校生38%)」、「私は学校行事の時に見た目を友人とそろえている(中学生13%、高校生10%)」、「私は部活で服装を友人とそろえている(中学生14%、高校生11%)」など服装に関する項目が含まれている。同様に、女子大学生を対象とした調査(山田, 2017)においても、複数の場面で「私はファッションを友人とそろえている(日常場面5%、部活・サークル場面2%、旅行場面57%)」があげられている。また、山田(2017)は自由記述を整理し、実際におそろいに行っているものとして、モバイル、ファッション、アクセサリがあげられ、特にファッションには、おそろいに行っている相手との関係性の記述にライブやテーマパークといった遠出や非日常性を連想させるものが多かったことから、ファッションのおそろい行動が日常的に行われるよりも非日常的に行われるものである可能性を指摘している。前述した山田(2017, 2019)のおそろい行動の定義を踏まえると、本研究で取り上げる双子コーデはおそろい行動の1つとして捉えることができる。また、山田(2017, 2019)の女子中学・高校生、女子大学生の服装やファッションのおそろいに関する項目の経験率や考察を踏まえると、双子コーデは日常的に行われるのではなく、旅行やライブなどのイベントに伴って、非日常的に行われるものと考えられる。

前述した高坂ら(2010)や池田ら(2013)、山田(2019)では、共有すること、もしくは、おそろいにするものの心理的機能についても、取り上げている。たとえば、高坂ら(2010)では、「物品」の共有が他の共有と比べ、共有の心理的機能(動機づけ、楽しさの増大、周囲からの親和的評価の獲得、負担感の増加、周囲からの達成的評価の獲得、周囲からの否定的評価の増大)の得点が低く、「物品」の共有は、

中学生の友人関係における共有として、ポジティブな機能もネガティブな機能も有しないと指摘している。加えて、池田ら(2013)では、友人との「物品の共有」は、前述したような他の共有様式に比べて、全体的に得点が低いことや、「物品の共有」が仲のよい友だちとの関係満足度と、親友との深いつきあい方に負の影響を与えることを踏まえ、「物品の共有」が大学生の親密な友人関係を議論する上であまり重要ではないと指摘している。一方で「感性の共有」は、顔見知り程度の関係から一步踏み込んだ関係である仲のよい友だちとの間で、関係満足度を高めるという結果から、考え方や趣味などの友だちと類似した感性を共有できることが、親密な関係を築いていく上で重要となると考察している(池田ら, 2013)。以上より、洋服や装飾アイテムの物質的な共有である双子コーデは、友人関係にポジティブな機能もネガティブな機能も有さないが、一方で、双子コーデはファッションの志向が似ているといった感性も共有しており、友人関係を親密なものとするのに関連する可能性も考えられる。

一方、山田(2019)の研究では、「おそろいに対する積極的な感情(私は友人とおそろいのものを持ちたい)」や「おそろいに対する消極的な感情(私は友人とおそろいのものを持つことに違和感がある)」といったおそろい行動に対する感情や、「親密感(お互いに励ましあえる)」「負担感(相手に縛られていると思うことがある)」「周囲からの親和的評価(自分たちは親しいと思われている)」「周囲からの達成的評価(自分たちは頑張っている)」といったおそろいの心理的機能を取り上げている。山田(2019)によれば、女子中学生はおそろいに対する積極的な感情や、親密感および周囲からの達成的評価というおそろいの心理的機能が高く、女子高校生はおそろいに対する消極的な感情や、負担感というおそろいの心理的機能が高かった。すなわち、他者とおそろいにするという行動は、中学生のように青年期の前半では、積極的な感情や親密感という肯定的な心理的機能をもたらすが、その後、青年期の後半に向けて、消極的な感情や負担感という否定的な心理的機能をもたらすと考えられる。この結果について、山田(2019)は、保坂(1998)を踏まえ、年齢の変化に伴い友人関係のあり方が同質性を重視する関係性から異質なものを認め合う関係性へと変化していくため、おそろい行動も変化すると考察している。本研究で取り上げる双子コーデをおそろい行動の1つとして捉えると、双子コーデに対して、積極的な感情や消極的な感情をもったり、双子コーデをすることで、親密感や負担感を感じたり、周囲から親和的・達成的な評価を受けると考えられる。

以上を踏まえると、同性の友人関係にある2人が、同じ洋服や装飾アイテム、もしくは同じ洋服の色や柄違いを用いて、“同一であるように”全身をコーディネートし、双子のように演出することである双子コーデ(市村ら, 2018)には、以下のような特徴があると考えられる。双子コーデは友人関係にある2人が、洋服や装飾アイテムという物質的な共有と、ファッションの志向が似ているといった感性などを共有しており、日常的に行われるのではなく、旅行やライブなどのイベントに伴って非日常的に行われるものと考えられる。また、双子コーデをすることによって、ファッションの志向が似ているといった感性の共有や、視覚化できる物質的な共有をしており、それらの共有によって、友人関係に親密感や負担感を感じたり、周囲から様々な評価を受けると考えられる。

なお、双子コーデ現象に注目した市村ら(2018)の研究では、双子コーデをする理由や、双子コーデの経験と友人関係のスタイルとの関連について検討している。市村ら(2018)によれば、大学生は、他者と同じようにしたいという「同調の欲求」(ジンメル, 1976; 上野, 1994)よりも、双子コーデをしている自分たちを2人で1人と捉え個性を示し、他者に差をつけようとする「差別化の欲求」(ジンメル, 1976; 上野, 1994)によって双子コーデをしていると予想されること、双子コーデによって友人関係を深めていること、労力や金銭が必要でかつ社会で目立つという行為である双子コーデをすることのできる

友人が自分にはいるということ周囲に呈示していると考察している。これらの考察を踏まえると、前述したように、双子コーデをすることによって、友人関係に親密感や負担感を感じたり、周囲から様々な評価を受けていることが想定される。ただし、市村ら(2018)の研究では、双子コーデをする理由については、実際に双子コーデを経験している者だけではなく、双子コーデを未経験である者が同世代が行う現象として想定し回答したものが含まれていることや、双子コーデの経験有無による比較について、十分なデータを得ることができていない。

そこで本研究では、大学生が双子コーデ現象をどのように捉えているのか、具体的には、双子コーデ現象への評価と、双子コーデをする理由について取り上げ、双子コーデの経験有無による違いを検討する。

方 法

2016-2017年に大学生161名を対象に質問紙調査を行った。そのうち、双子コーデを知っていると答えた155名(男性40名、女性115名、平均年齢20.9歳、SD=0.8)を分析対象者とした。

調査項目

(1) 双子コーデ現象への接触に関する項目：双子コーデについて情報を得たものとして、テレビ、インターネットの記事、SNS、雑誌、その他をあげ、多重回答方式で回答を求めた。また、実際に街中で双子コーデをしている人を見たことがあるかどうかについて「はい」「いいえ」で尋ね、友だちで双子コーデをしている人がいるかどうかについても「はい」「いいえ」で尋ねた。(2) 双子コーデの経験に関する項目：双子コーデの経験について「はい」「いいえ」で尋ね、「いいえ」と回答した者には今後やってみたいと思うかについても同様に「はい」「いいえ」で尋ねた。(3) 双子コーデ現象への評価に関する項目：15項目について多重回答方式で回答を求めた(Table 2参照)。(4) 双子コーデの行為者の関係性に関する項目：「あなたは、双子コーデの行為者(双子コーデをする2人)の関係性についてどのように考えますか」という教示のもと、2項目(性別と関係の深さ)を尋ねた。具体的には、性別について、男性同士、女性同士、異性同士から多重回答方式で回答を求め、双子コーデの行為者(双子コーデをする2人)の関係の深さについては、浅い(1)から深い(5)の5件法で回答を求めた。(5) 双子コーデをする理由に関する項目：市村ら(2018)を参考に38項目を作成し、多重回答方式で回答を求めた(Table 3参照)。

結 果

双子コーデ現象について

双子コーデに関して情報を得たものとして、テレビがn=101(65.2%)、インターネットがn=62(40%)、SNSがn=108(69.7%)、雑誌がn=43(27.7%)、その他がn=17(11.0%)であった。その他の回答としては、実際に街中で見たことがある、兄弟(姉妹)が友だちとやっていた、友だちや知り合いから話をきいた、アニメ、大学の授業や論文などがあつた。

また、双子コーデの行為者(双子コーデをする2人)の関係性について、性別は男性同士はn=16(10.3%)、女性同士はn=150(96.8%)、異性同士はn=73(47.1%)が選択しており、主として女性同士で行われる現象として捉えられるが、男性もしくは異性同士でも行われるものでもあると考えられていることが明らかになった。また、関係の深さについては、浅い(1)から深い(5)の5件法で尋ねたところ、M=4.2、SD=0.8であり、関係の深い2人によって双子コーデが行われると捉えられていた。

さらに双子コーデ現象との接触について男女の違いについて検討した。結果をTable1に示す。その結果、双子コーデの経験者、友だちで双子コーデをしている人がいる、実際に街中で双子コーデをしている人た

ちをみたことがあるのすべての項目において、男性よりも女性の方が経験数が多かった。なお、双子コーデの未経験者のうち、「今後、双子コーデをやってみたい」と回答した者は、n=10 (女性のみ) であった。

Table 1 各経験者の男女別の割合

	男性		女性		χ^2
	n	%	n	%	
実際に街中で双子コーデをしている人たちをみたことがある	26	16.8	107	69.0	19.2 **
友だちで双子コーデをしている人がある	8	5.2	75	48.4	24.7 **
双子コーデの経験	2	1.3	50	32.3	19.7 **

** $p < .01$

※%は性別ごとに選択率を算出した

双子コーデ現象の捉え方

双子コーデに対する評価と、双子コーデをする理由について、各項目への全体の選択率をTable2、3に示す。双子コーデに対する評価については、全体では「かわいい (54.8%)」や「ほほえましい (47.7%)」の選択率が高かった。双子コーデをする理由について、全体では、「楽しいから (63.2%)」や「イベントに参加するため (61.9%)」、「テンションがあがるから (61.3%)」、「SNSにアップしたいから (60.0%)」の選択率が高かった。

次いで、双子コーデの経験者および今後経験してみたい者を「双子コーデの経験ありorやってみたい (n=62)」とし、双子コーデの未経験者かつ今後経験したくない者を「双子コーデの経験なし&やりたくない (n=93)」とし、双子コーデ現象に対する評価と、双子コーデをする理由に関して、 χ^2 検定を行った。結果をTable2、3に示す。

その結果、「双子コーデの経験なし&やりたくない」者よりも「双子コーデの経験ありorやってみたい」者は、双子コーデに対して「かわいい」、「うらやましい」、「好ましい」、「魅力を感じる」、「ほほえましい」と評価していた。また、「双子コーデの経験なし&やりたくない」者よりも「双子コーデの経験ありorや

Table 2 双子コーデ現象に対する評価項目への全体および経験別の選択率と χ^2 検定の結果

	全体 (n=155)		経験なし & やりたくない (n=93)		経験ありor やってみたい (n=62)		χ^2
	n	%	n	%	n	%	
	1 尊敬する	5	3.2	4	4.3	1	
2 かわいい	85	54.8	36	38.7	49	79.0	24.4 **
3 近寄りたいたい	26	16.8	18	19.4	8	12.9	1.1
4 ねたましい	1	0.6	0	0.0	1	1.6	1.5
5 美しい	1	0.6	0	0.0	1	1.6	1.5
6 うらやましい	15	9.7	2	2.2	13	21.0	15.1 **
7 好ましい	8	5.2	2	2.2	6	9.7	4.3 *
8 軽蔑する	3	1.9	3	3.2	0	0.0	2.0
9 不快である	7	4.5	6	6.5	1	1.6	2.0
10 理解できない	28	18.1	25	26.9	3	4.8	12.2 **
11 カッコいい	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
12 気味が悪い	14	9.0	13	14.0	1	1.6	6.9 **
13 魅力を感じる	11	7.1	1	1.1	10	16.1	12.8 **
14 ほほえましい	74	47.7	35	37.6	39	62.9	9.5 **
15 何も感じない	33	21.3	26	28.0	7	11.3	6.2 *

** $p < .01$ * $p < .05$

Table 3 双子コーデをする理由項目への全体および経験別の選択率と χ^2 検定の結果

	全体 (n=155)		経験なし& やりたくない (n=93)		経験ありor やってみたい (n=62)		χ^2
	n	%	n	%	n	%	
1 みんながしているから	38	24.5	20	21.5	18	29.0	1.1
2 友だちとの価値観が似ているから	38	24.5	17	18.3	21	33.9	4.9 *
3 自分のファッションセンスに自信がないから	1	0.6	1	1.1	0	0.0	0.7
4 非日常を味わいたいから	43	28.1	18	19.4	25	40.3	8.2 **
5 友だちとの関係を深めたいから	74	47.7	50	53.8	24	38.7	3.4
6 友だちとの仲の良さを目に見える形にしたいから	82	52.9	60	64.5	22	35.5	12.6 **
7 テンションがあがるから	95	61.3	51	54.8	44	71.0	4.1 *
8 同じものをもつ安心感が欲しいから	32	20.6	22	23.7	10	16.1	1.3
9 イベントに参加するため	96	61.9	49	52.7	47	75.8	8.4 **
10 おしゃれに見えるから	24	15.6	13	14.0	11	17.7	0.4
11 楽しいから	98	63.2	53	57.0	45	72.6	3.9 *
12 目立ちたいから	50	32.3	34	36.6	16	25.8	2.0
13 気の迷いから	6	3.9	5	5.4	1	1.6	1.4
14 友だちと共通点が欲しいから	37	23.9	28	30.1	9	14.5	5.0 *
15 似たようなデザインが普及しているから	5	3.2	4	4.3	1	1.6	0.9
16 友だちとの関係の良さを確認したいから	54	34.8	41	44.1	13	21.0	8.8 **
17 友だちと趣味が同じだから	32	20.6	14	15.1	18	29.0	4.4 *
18 友だちとの関係の証がほしいから	47	30.3	36	38.7	11	17.7	7.7 **
19 友だちと同じものを身につけたいから	47	30.3	33	35.5	14	22.6	2.9
20 お店でおそろいの商品として売っていたから	13	8.4	8	8.6	5	8.1	0.0
21 魅力的な写真がとれるから	61	39.6	33	35.5	28	45.2	1.5
22 学生の今しかできないことだから	59	38.1	22	23.7	37	59.7	20.5 **
23 一人より自信がもてるから	20	12.9	14	15.1	6	9.7	1.0
24 誰かと一緒だと安心するから	38	24.5	25	26.9	13	21.0	0.7
25 若いうちにしかできないから	69	44.5	28	30.1	41	66.1	19.5 **
26 かわいいから	74	47.7	40	43.0	34	54.8	2.1
27 仲間意識をもちたいから	73	47.1	52	55.9	21	33.9	7.3 **
28 相手に強要されたから	11	7.1	5	5.4	6	9.7	1.0
29 流行しているから	54	34.8	36	38.7	18	29.0	1.5
30 双子にあこがれるから	7	4.5	2	2.2	5	8.1	3.0
31 2人なら怖くないから	27	17.4	20	21.5	7	11.3	2.7
32 雑誌やメディアでとりあげられているから	36	23.2	32	34.4	4	6.5	16.3 **
33 兄弟(姉妹)にあこがれるから	2	1.3	1	1.1	1	1.6	0.1
34 いつまでも友だちでいたいから	18	11.6	12	12.9	6	9.7	0.4
35 SNSにアップしたいから	93	60.0	61	65.6	32	51.6	3.0
36 イベントで目立つため	52	33.5	27	29.0	25	40.3	2.1
37 カッコいいから	1	0.6	1	1.1	0	0.0	0.7
38 周囲に友だちとの仲の良さをアピールしたいから	57	36.8	43	46.2	14	22.6	9.0 **

** $p<.01$ * $p<.05$

てみたい」者は、双子コーデをする理由として、「友だちとの価値観が似ているから」、「非日常を味わいたいから」、「テンションがあがるから」、「イベントに参加するため」、「楽しいから」、「友だちと趣味が同じだから」、「学生の今しかできないことだから」、「若いうちにしかできないから」などを選択していた。

一方で、「双子コーデの経験ありorやってみたい」者よりも、「双子コーデの経験なし&やりたくない」者は、双子コーデに対して「理解できない」、「気味が悪い」、「何も感じない」と評価していた。また、「双子コーデの経験ありorやってみたい」者よりも、「双子コーデの経験なし&やりたくない」者は、双子コーデをする理由として、「友達との仲の良さを目に見える形にしたいから」、「友だちと共通点が欲しいから」、「友だちとの関係の良さを確認したいから」、「友だちとの関係の証が欲しいから」、「仲間意識をもちたいから」、「雑誌やメディアでとりあげられているから」、「周囲に友だちとの仲の良さをアピールしたいから」

などを選択していた。

また、双子コーデをする理由の構造を検討するために、数量化Ⅲ類を行った。双子コーデをする理由に関する項目のうち、全体の項目への選択率が25%以上であった22項目を解析に用いた。解析の結果、累積説明率と解釈可能性を判断基準として、Ⅱ軸まで検討した。固有値は、第Ⅰ軸が.22、第Ⅱ軸が.12であり、Ⅱ軸までの累積寄与率は25.5%であった。Figure 1は、Ⅰ軸とⅡ軸のカテゴリースコアを用いて、双子コーデをする理由の項目を平面上にプロットしたものである。また、対象者ごとにサンプルスコアを算出した。双子コーデを経験しているかどうかおよび今後やってみたいと思うかどうかについて「双子コーデの経験ありorやってみたい」と「双子コーデの経験なし&やりたくない」の2群と、友だちで双子コーデをしている人がいるかどうかについて「友だちにいる」と「友だちにいない」の2群において、それぞれ群別に、サンプルスコアの平均値を算出し、併せてプロットした。

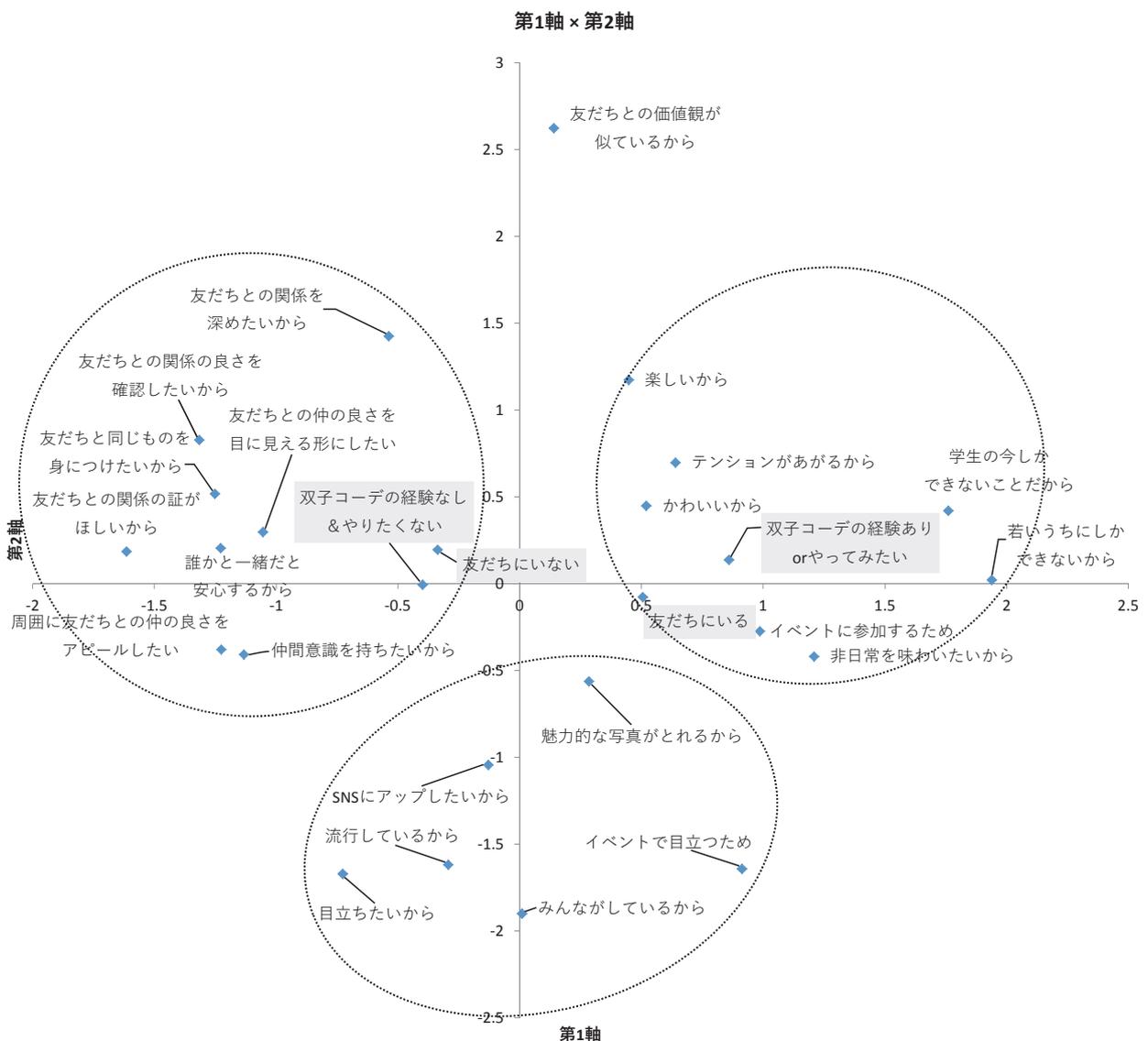


Figure 1 双子コーデの理由の構造および双子コーデの経験に関する数量化Ⅲ類の結果のプロット図

※網掛けはサンプルスコアを算出して付置したものを表す

Figure 1の左上部の領域には、「友だちとの関係の証がほしいから」や「友だちと同じものを身につけたいから」、「友だちとの関係の良さを確認したいから」、「友だちとの関係を深めたいから」、「友だちとの

仲の良さを目に見える形にしたいから」、「周囲に友だちとの仲の良さをアピールしたいから」、「誰かと一緒だと安心するから」、「仲間意識を持ちたいから」の理由が含まれていた。以上から、双子コードをする理由として、友だちとの関係を深め、確認し、その関係の証としたり、周囲にアピールしたりするなど、友だちへの親密さの希求や確認のための「友だちとの関係志向」があると解釈された。また、同じ領域に、双子コードを経験しているかどうかおよび今後やってみたいと思うかどうかの「双子コードの経験なし&やりたくない」と友だちに双子コードをしている人がいるかどうかについての「友だちにいない」という経験も含まれていた。双子コードの経験がなく今後も双子コードを経験したくない者は、双子コードをしている人たちをみて、友だちへの親密さの希求や周囲へのアピールのために双子コードをしていると捉えられていると解釈された。

Figure 1の右上部の領域には、「楽しいから」や「テンションがあがるから」、「非日常を味わいたいから」や「イベントに参加するため」、「学生の今しかできないことだから」や「若いうちにしかできないから」の理由が含まれた。以上から、双子コードをする理由として、テンションがあがったり、イベントや非日常を味わうことができ、学生や若いうちにしかできないこととして、自分が楽しいから双子コードを楽しみたいという、限られた時間・空間で自分が楽しむことを志向する「自分の楽しさ志向」と解釈された。また、同じ領域に、双子コードを経験しているかどうかおよび今後やってみたいと思うかどうかの「双子コードの経験ありorやってみたい」と友だちに双子コードをしている人がいるかどうかについての「友だちに在る」といった経験も含まれていた。実際に双子コードを経験してみたり、今後双子コードをしてみたいと考えたりしている者は、学生のうちにだけできる非日常体験として双子コードを楽しんでいると解釈された。

Figure 1の下部の領域には、「流行しているから」や「イベントで目立つため」、「SNSにアップしたいから」「魅力的な写真がとれるから」などの理由が含まれた。以上から、双子コードをする理由として、双子コードを流行として捉え、魅力的な写真を撮ってSNSにアップしたりイベントで目立ったりするために双子コードをするという、社会へのアピールを志向した「流行・社会志向」があると解釈された。

考 察

本研究の目的は、大学生が双子コード現象をどのように捉えているのか、双子コードの経験有無による違いについて検討することであった。

本研究の結果、双子コードの現象については、テレビやSNSおよびインターネットで情報に触れたり、友だちが双子コードをしていたり、実際に街中で双子コードをしている人たちをみたことがあるといったように、様々な形で現象に触れていることが明らかになった。また、双子コードの経験に加え、双子コードをする友人や、双子コードをしている人たちをみた経験は、男性よりも女性の方が多かった。双子コードの行為者（双子コードをする2人）の関係性については、主として女性同士で行われる現象であるが、男性もしくは異性同士でも行われるものでもあることや、関係の深い2人によって双子コードが行われると捉えられていた。以上より、双子コード現象は、市村ら（2018）が指摘するように、大学生において周知されており、女性を中心とした現象であった。また、双子コードの行為者たちは関係が深い女性同士であると捉えられているものの、男性もしくは異性同士でも行われるという回答もあり、双子コード現象が女性同士のものから、関係が深い男性や異性同士の中にも取り入れられるというように現象が発展している可能性も考えられる。

また、双子コードの現象の捉え方について、双子コードに対する評価と、双子コードをする理由につい

での選択率をみると、全体として、双子コーデに対して「かわいい」や「ほほえましい」の選択率が高く、双子コーデをする理由として「楽しいから」「イベントに参加するため」「テンションがあがるから」「SNSにアップしたいから」の選択率が高かった。全体として、大学生は双子コーデをすることは楽しくテンションがあがることと考え、双子コーデというファッションにかわいくほほえましいといった肯定的な評価をしていた。また、イベントへ参加したりSNSへ投稿したりするための手段として捉えられていた。

双子コーデの経験者や今後経験してみたい者は、双子コーデに対して「かわいい」「うらやましい」「好ましい」「魅力を感じる」「ほほえましい」と感じ、肯定的に捉えていた。双子コーデの未経験者かつ今後経験したくない者では、双子コーデに対して「かわいい」「ほほえましい」に次いで「何も感じない」「理解できない」「気味が悪い」が選択されており、肯定的な意見を持つ者ととともに不可解で受け入れがたいものと捉える者が含まれていた。

さらに、数量化Ⅲ類を用いて双子コーデをする理由の構造について検討した結果、双子コーデをする理由は3つのまとまりに整理された。

第1は、友だちとの関係を深め、確認し、関係の証としたり周囲にアピールしたりするなどの、友だちへの親密さの希求や確認という「友だちとの関係志向」である。「双子コーデの経験なし&やりたくない」と「友達で双子コーデをしている人がいない」といった経験は友だちへの親密さの希求や確認による「友だち関係志向」と同じ領域に含まれていたことから、双子コーデの経験がなく今後も双子コーデを経験したくない者は、双子コーデを、友だちへの親密さの希求や確認と周囲へのアピールのために行うものと捉えていると考えられる。山田(2019)によれば、女子中高生のおそろいの心理的機能には、親密感を高めたり、周囲から親和的な評価を受けたりすることが含まれているが、双子コーデの「友だちとの関係志向」はこの機能に該当していると考えられる。双子コーデの経験がない者をはじめとして、この理由を選択する者は、双子コーデを、池田ら(2013)における「感性の共有(私と相手は好きなものが似ている)」を、「物品の共有(私と相手はおそろいの物を持っている)」に加えて、「関係の共有(私と相手との間には確かな絆がある)」によって行う手段として捉えていると考えられる。

第2は、双子コーデを、楽しく、テンションがあがったり、イベントや非日常を味わったりすることができ、学生や若いうちにしかできないこととして、自分が楽しいから双子コーデを楽しみたいという、限られた時間・空間で自分が楽しむことを志向する「自分の楽しさ志向」である。双子コーデの経験がある者や今後やってみたい者は「自分の楽しさ志向」と同じ領域に含まれていたことから、双子コーデを経験してみたり今後双子コーデをしてみたいと考えたりしている者は、イベントや非日常の体験として、また、学生や若いうちにしかできないこととして、自分が楽しいから双子コーデをしてみたいと考えていると解釈される。この「自分の楽しさ志向」は、ファッションのおそろい行動が日常的に行われるよりも非日常的に行われるものであるという指摘(山田, 2017)に整合している。実際に双子コーデをしている大学生は、双子コーデというおそろい行動を、日常的に友人との関係を確かめる手段ではなく、イベントなどの非日常を楽しむ手段として捉えていると考えられる。

第3は、双子コーデを流行として捉え、魅力的な写真を撮ってSNSにアップしたりイベントなどで目立ったりすることができるという、社会的な要因もしくは社会へのアピールにつながる「流行・社会志向」である。ファッションのおそろい行動は日常的に行われるよりも非日常的に行われるものという指摘(山田, 2017)や、双子コーデをしている自分たちを2人で1人と捉え個性を示し、他者に差をつけようとする「差別化の欲求」(ジンメル, 1976; 上野, 1994)によって双子コーデをしているという指摘(市村ら, 2018)を踏まえると、双子コーデという流行を取り入れることによって、イベントやSNS上で個性を示し、

他者や周囲に差をつけようとしていると考えられる。

最後に、本研究の結果を踏まえて、大学生が双子コーデ現象をどのように捉えているのか、双子コーデの経験有無による違いについて考察する。本研究の結果、双子コーデをしない者は、双子コーデを友だちへの親密さの希求や確認と周囲へのアピールのために行うものと捉える一方で、双子コーデを経験したい者は、双子コーデを日常的に友人との関係を確認する手段ではなくイベントなどの非日常を楽しむ手段として捉えていた。山田（2019）は、女子中学生がおそろいに対して積極的な感情をもち、おそろいすることで親密感や周囲からの達成的評価を受けると考えているが、女子高校生はおそろいに対して消極的な感情をもち、負担感を感じると考えていることを明らかにしている。さらに池田ら（2013）は、大学生を対象とした調査において、「物品の共有」が仲のよい友だちとの関係満足度と、親友との深いつきあい方に負の影響を与えることを明らかにしており、山田（2019）は、青年期の前半から後半にかけて、年齢の変化に伴って友人関係のあり方が同質性を重視する関係性から異質なものを認め合う関係性へと変化し、おそろい行動が肯定的なものから否定的なものとなることを指摘している。以上を踏まえると、双子コーデをしない大学生は双子コーデを「物品の共有という同質性の強調によって、友人との関係を深めたり周囲にアピールしたりする未成熟な手段」と捉えている可能性がある。一方で双子コーデをしたい大学生は、双子コーデを友人との親密さを高める手段としてよりも「仲の良い友人と非日常体験を満喫するための手段」として捉えていると考えられる。このように、双子コーデの現象の捉え方には双子コーデの経験有無によって違いがあり、被服や流行現象に対する経験者と観察者の捉え方の違いを示唆している。

今後の課題について、2点取り上げる。第1に、非日常場面での被服行動についてである。本研究では、双子コーデをする本人たちにとって、非日常を楽しむ手段として行われていることが明らかになった。テーマパークやライブ会場などでおそろいの服装（山田，2019）のほか、祭りの法被や半纏などの伝統的な衣装も、非日常場面でおそろいの服装をする現象である。非日常場面でおそろいにするのが、具体的にどのような意図をもって行われるのか、また、当事者と観察者とにそれぞれどのように評価されているのかを、より詳細に検討する必要があると考えられる。第2に、双子コーデとSNSとの関係である。本研究の結果から、大学生はSNSを通して双子コーデの情報を得たり、閲覧を期待して双子コーデの写真を発信したりするなど、双子コーデとSNSの間には受信と送信の双方向的な影響があると推定されることから、SNSの使用に関する特徴などと双子コーデとの関連も検討する必要があると考えられる。

引用文献

- 保坂 亨. 児童期・思春期の発達. 教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—. 下山晴彦編. 東京大学出版会. 1998. p.103-123.
 市村美帆・新井洋輔・今野裕之. 双子コーデ現象の心理学的検討. 目白大学心理学研究. 2018, 14, p.57-68.
 池田幸恭・葉山大地・高坂康雅・佐藤有耕. 大学内の友人関係における親密さと共有様式との関係. 青年心理学研究. 2013, 24, p.111-124.
 高坂康雅・池田幸恭・葉山大地・佐藤有耕. 中学生の友人関係における共有している対象と心理的機能との関連. 青年心理学研究. 2010, 22, p.1-16.
 ジンメル G, 円子修平・大久保健治訳. 流行 ジンメル著作集7. 白水社. 1976, p.31-61.
 上野行良. 流行の心理. ファンとブームの社会心理. 松井豊編. サイエンス社. 1994, p.209-231.
 山田有莉. 親密確認活動におけるおそろい行動—被異質視不安と自尊感情との関連—. 金城学院大学大学院人間生活学研究科論集. 2017, 17, p. 9-20.
 山田有莉. 親密確認活動におけるおそろい行動—被異質視不安及び異質拒否傾向・適応間との関連—. 金城学院大学大学院人間生活学研究科論集. 2019, 19, p.1-12.

市村 美帆（和洋女子大学 人文学部 心理学科 助教）

新井 洋輔（東京福祉大学 心理学部 心理学科 講師）

（2019年10月8日受理）